

世 界 自 然 遺 産 : 奄 美 大 島

奄美大島は琉球列島の中では最大かつ最北端の島で、世界自然遺産に登録された。712 平方キロほどの島は主に山が広がっている。島の複雑な海岸線は、リアス式海岸といい、地面が隆起した後に谷に沈水してできた入り江である。海岸は裾礁（岸近くから外向きに育つサンゴ礁）と岸から離れた堡礁で囲まれ、多くの生物が暮らすラグーンで形成されている。

亜 熱 帯 気 候

フィリピンの東海岸から北東方面へ流れる黒潮の暖流とモンスーンによって奄美大島の亜熱帯海洋性気候を作り出している。年中温暖で湿度は高く、平均気温は 21.8 度で、5 月中旬から 6 月下旬の梅雨と、7 月から 10 月の台風期により、年間降水量は 2,900mm にもなる。

希 少 で 珍 し い 動 物 た ち

島には多種多様で希少な生物が暮らし、特定の地域にしか生息しない固有種が多く、中でも陸生哺乳類 13 種のうち 8 種が固有種、爬虫類 16 種のうち 10 種が固有種、両生類 10 種のうち 9 種が固有種、そして確認されている鳥類 315 種のうち、2 種が固有種、10 種が固有亜種である。多くの固有種数が生息するのは数百万年前にユーラシア大陸から島として分離した際、近い島々からも離され、孤立状態の中で発達したことが物語っている。アマミノクロウサギが代表的に該当し、遺伝子の状況から、約 900 万年前にユーラシア大陸から分散されたのが見える。

豊 か な 植 生

主に広葉樹が山々を覆い、その 8 割がブナ科のスダジイで、林床には固有種や希少種のカンアオイ属、カラフルなラン、大小のシダ、木の実など、多くの植物が生息している。住用川河口のマングローブ林には潮と湿地帯の塩分濃度によって様々な植生の変化を見ることができる。また、平坦な耕作地は少なく、主に島の最北端にある。耕作ができる平坦な地は島の最北部に多く集まっている。

島 の 伝 統

島の文化や社会構造は自然環境から大きく影響されており、内陸の山々が交通の便を制限したため、村は沿岸沿いに発達し、海路のみで繋がっていた。信仰も山や遠くの海から来た神々がノロ（村の女司祭）と交信をしていた。島民は周りの自然資源に非常に支えられ、その保護の重要性を認識して生活を